

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )  
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

↓  取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・H18年の制度改正以前から、理念の中に「地域で普通に暮らす」ということが掲げられている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・職員採用時には理念を伝え、理解してもらっている。 ・日々のケアの中で、また毎朝の申し送りやケース検討会、職員会議などの折々に、何を大切にしていけばかを話し合っている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	・近所やコミュニティセンター、地域の交番、お世話になっているお店等に機関紙を配布したり、利用者と一緒に作った笹団子をおすそわけして配ったり、機会あるごとにこちらから発信している。 ・自治会の集まりや催しへの参加、地域の小学校の行事への参加など、積極的に地域へ出かけることで、理念の浸透に努めている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・散歩や買い物など、日常的に外出の機会を設けており、ご近所の方々が声をかけてくださることも多い。また、途中で立ち話をしたり、ご近所の犬のところに遊びに行かせてもらったりもしている。 ・おすそ分けしたり、いただいたりといった機会がある。		・ご近所の方たちを誘い、お茶を飲みに来てもらったりするオープンハウスを行い、より地域と一体となったホームづくりを目指したい。また、利用者の方の作られた刺し子などの作品を販売するバザーも行いたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・自治会に加入しており、回覧板も回している。 ・自治会ののど自慢大会に利用者に参加したり、地域の小学校のふれあいまつりに出かけて行ったりしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・ホーム長が様々な研修や会合に関わり高齢者ケアへの理解の普及に努めている。 ・救急法の講習会を地域の方々にも呼びかけ定期的に行っている。 ・実習生を受け入れ、人材育成にも貢献している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・自己評価は全職員で行い、職員会議でも話し合っている。 外部評価の結果は全職員が回覧して目を通し、改善すべき点は会議の時に検討し、具体案を出し合うようにしている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・活動状況や利用者の状況の報告を行うと同時に、それに対する質問をうかがったり、懸案事項へのアドバイスをいただいたりしている。 ・評価については、中間報告や結果を公表し、それに対する今後の取り組みも報告し、アドバイスをいただいている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・判断に迷うサービスの課題については市担当者の意見を仰いでいる。また、こちらから要望も伝えている。 ・市職員が、ボランティアに来てくださっている。		・どんなことでも相談に乗ってもらえるような、今まで以上に良好な関係を築いていきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・地域福祉権利擁護事業や、成年後見制度を利用している利用者があり、利用のたびに説明はしているので、漠然とはわかっている。しかし、詳細まで制度を理解している職員は少ない。		・地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学習会を持ちたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・ホームでは、高齢者虐待は無縁だと考えていたので、今まで深くそれについて学ぶ機会を持てていなかった。		・高齢者の虐待について学習会を開き、どんな些細なことでも見逃さないように取り組んでいきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>・入居契約時には、重要事項説明書に基づき、詳しく説明を行っている。また、料金の変更のある場合、十分な時間を置いて了承を得るようにしている。</p>	<p>・状況に応じて、適宜契約書の見直しを行っていきたい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・利用者からの不満、苦情に対しては、その都度解消できるよう職員で話し合っ、利用者伝えるようにしている。</p> <p>・第三者委員の方を食事会にお招きし、紹介した。</p> <p>・利用者の希望にはできるだけ添えるよう努力している。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>・定期的な報告としては3か月毎に個人個人の写真を交えた「暮らし日記」を作成し、預かり金の明細とともにご家族にお届けしている。また、体調の変化等あればその都度ご連絡している。</p> <p>・ご家族来訪時には近況を報告している。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>・玄関に意見箱を設置、見やすい位置に苦情相談のポスターを貼り、また手紙などでも声掛けし、なんでも自由に言っただけよう配慮している。</p> <p>・ご意見いただいたときはすぐに検討し、今後の運営にどう生かしていくか職員で話し合い、その結果を伝えるようにしている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>・毎月1回の職員会議では、様々なことを全員で話し合っている。</p> <p>・運営者と管理者は、常に職員と話し合いながら日々の業務を進め、朝の申し送りの時間を有効に利用している。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>・新しく入られた利用者がいらっしやるとき、季節の変わり目で落ち着かない方がいらっしやるとき、体調の悪い方がいらっしやるとき、個別の外出計画がある時など、柔軟に対応できるようにシフト調整している。</p>	<p>・利用者の高齢化、重度化に対応した職員配置ができるよう、職員全員で話し合っしていきたい。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>・運営者は、馴染みの関係はもちろん重要と考えており、職員が長く勤めやすい環境整備に努めている。しかし、若い職員のステップアップのためや、結婚・転居などやむを得ず移動や離職となる場合も多く、悩ましい問題である。しかしその場合も利用者きちんと説明し、利用者から送り出してもらっている。</p> <p>・きちんと引き継ぎの時間も設けるようしている。</p>	
18-2	<p>マニュアルの整備</p> <p>サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。</p>	<p>・各種マニュアルを整備し、職員がいつでも手にとって見られる所に置いている。</p> <p>・様々な状況の変化や、反省点から、マニュアルの見直しを行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>・リハビリの先生を招き実技の講習を開いたり、看護師(保健師)による服薬管理の講習、その他外部の講習などできるだけ多くの職員が受講できるよう勤務調整している。</p>	<p>・来年度ではさらに、研修の年間計画を立て、段階的な研修も受講できるようにしていきたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>・今年度は他ホームへ訪問・交流することができなかったが、他ホーム職員が研修に来られたので、そちらの様子をうかがうことができた。</p>	<p>・今後は近隣の他ホームとより良いネットワークを構築できるよう努め、情報や意見の交換が行えるようにしていきたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>・体調を崩している職員や笑顔が少なくなってきた職員には声をかけ、できるだけ話を聴くなど個別に対応している。また、職員の慰労、親睦を兼ね、暑気払いや忘年会を行ってきたが、職員の楽しみ会にまではなっていない。</p>	<p>・家族だけでなく、ペットが死んだときにも休暇、あるいはそれに類した形で職員の悲しみやストレスを軽減できないか検討する。</p> <p>・ハード面で限界があるが、休憩時間に職員がよりくつろげるような休憩室の整備をしていく。</p>
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>・できるだけ職員が外部研修に出席できるように計画してきたが、職員間のばらつきが見られた。実務者研修等3年間続けて申し込みをしても採用されなかった。</p>	<p>・職員各自に応じた段階的、計画的学びの確保、質の確保向上に向けて、教育研修の年間計画を立案し実施していくことになった。</p>
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・施設見学にはできればご本人にも来ていただき、その時にお話をうかがうようにしている。</p> <p>・事前面接の際には、こちらからご自宅へ伺い、生活環境などを把握するよう努めている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>・できるだけゆっくりとお話をうかがえる時間帯にお約束し、これまでの経緯や苦労話を受け止めるようにしている。</p> <p>・電話でご相談を受けるときには、特にご家族の思いを受け止められるよう十分に話をうかがうようにしている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・相談される方はサービス利用を急いで迫られている方が多く、当ホームですぐにお応えできないときには、ご要望を十分に伺い、他のサービスや他機関等の情報提供や、連絡調整をしている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・入居申し込みをされ、待機中の方に、日中遊びに来ていただき、ホームの雰囲気慣れていただいたことがある。 ・ご家族をはじめ、これまでの人間関係が継続されるよう支援を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・普段より利用者から、料理や生活の知恵、風習などを教えていただくことが多く、いろいろな場面で、力を発揮していただけるよう配慮している。 ・ご本人の思いや不安、寂しさ、喜びなどを受け止め、共感できるよう努めている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・ご家族が来訪されたときにご本人の様子をお伝えしながら、ご家族の気持ちや方針もお聞きし、一緒にご本人を支えていけるよう努めている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・ご本人のご様子について、こまめに連絡したり、指示を仰いだりしながら、よりよい関係の構築、継続ができるよう働きかけている。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・友人のところへ出かけたり、遊びに来てもらったり、また、一緒に外出していただくなど、以前からの交流が続けられるよう、支援している。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・ご利用者同士の相性の善し悪しを、日々の生活の中から把握するようにしており、利用者同士の関係がうまくいくように、場面に応じて声掛けしたり、職員が間に入って調整するなどしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・過去には自立となりケアハウスへ移られた方のところへ訪問したり、他施設へ移られた方のところへ利用者の方と行ったり、また亡くなられた方のご家族へはお盆やお彼岸にお参りに伺ったりした。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日々の暮らしの中で話を聞き、思いを受け止めるようにしている。 ・ご本人にとってよりよい暮らし方は何なのか、ご家族にもお聞きしながら検討している。		・ご本人の一番の希望を一緒に叶えていきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・利用開始時に訪問したりお聞きしたりする他、ご家族の来訪時にご本人の言葉の背景にあるものの情報を教えていただいたりしてご本人の全体像を把握するよう努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・申し送りを大切にし、職員全員がご利用者それぞれの一日の暮らしを総合的に把握できるよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・日々の申し送りの中で出される意見やアイデアを介護計画に取り入れたり、ご本人やご家族の意見を聞いたりしている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・ご本人の状態の変化に応じて期間終了前でも見直しをしている(特に入退院後など)。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・毎日利用者の様子や言葉などを個別のケース記録に記入し、特記事項は日誌や申し送りノートにも記載して情報の共有を図っている。 ・状況に応じて対応のしかたを変えている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・個々の利用者の状況の変化に応じてホームとしてどこまで対応できるのか、ご本人やご家族と話し合う機会を設けている。		・これからも柔軟な対応ができるよう検討していきたい。また、デイサービスやショートステイができるよう市には研修を受ける機会を与えていただきたいし、環境も整えたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・地域の理容院や美容院は利用者のことを理解してくださっており、協力的である。 ・交番に機関紙を届け理解を求めたり、消防署には定期的に防災訓練や救急法講習会でお世話になっている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・利用者の状況や希望に応じてまごころヘルプを利用して外出や通院等できるよう支援している。 ・市社協の地域福祉権利擁護事業や成年後見制度の利用を支援している。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・運営推進会議に地域包括支援センターの職員が出席していただき、周辺情報を提供して下さったり、また、地域包括支援センターが主催する地域のサービス事業者・病院・民生委員等で構成される地域ケア会議に参加した。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・利用者はそれぞれ入居前からのかかりつけ医へ受診されている。 ・基本的には通院はご家族にお願いしており、入居前に説明し同意を得ている。必要に応じてご本人の様子を主治医へ文書で伝えている。 ・高齢化に伴い、ご家族が個別に往診医をお願いされる場合もある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・個別には日常の対応方法や薬の調整等で相談できる医師はおられる。		・今後ホーム全体のスーパーバイザーとして助言、相談にのってくださる医師を確保したい。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・看護職員があり、利用者の健康管理や状態変化に応じた支援をおこなっている。また、介護職員も日常的に健康管理をしており、必要に応じて看護職員に相談している。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・入院時には頻繁に職員が見舞い、安心していただけるよう配慮し、また、ご家族とも情報交換しつつ、早期に退院できるように病院側とも連絡をとっている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・ご本人やご家族に重度化及び看取りに関する指針について同意していただいている。		・今後ご本人の状況の変化に応じて、その都度関係者と話し合いができるよう一層の連携を図りたい。 ・継続して勉強していきたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・高齢化に伴い、かかりつけ医療機関の他に往診医を個別にお願いしている方もあり、急変時はすぐに連絡して指示を仰いだり、また往診もしてくださっている。		・今後もご本人の状況に合わせて対応していけるよう、ご家族、医師、職員が連携を図りながら支援していきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	・リロケーションダメージが少なく済むように文書で情報提供したり、また、職員が訪問したこともある。		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	・職員は常に親しみを持ちつつも、利用者に対して人生の大先輩としての年長者を敬う態度で接しており、介助の声かけもさりげなくするように心がけている。 ・記録等個人情報の取り扱いには、充分配慮している。	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	・一つひとつの声かけに、ご本人の意向を一つひとつ確認し返事をもらった上で介助、支援している。 ・答えやすいようにいくつかの選択肢を示してご自分で決めていただくよう配慮している。	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・皆で決められた日課をこなすのではなく、一人ひとりの暮らし方に添ってご自分のペースで一日を過ごしていただけるよう支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・着替えを用意する時など、できるだけご自分で選んでいただき、必要に応じて支援している。 ・床屋さんや美容院はご本人の希望される店でご本人の好みに応じてカットや毛染めなどしていただけるよう理解・協力を得ている。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・買い物は利用者と一緒に出かけ、調理も利用者の昔とった杵柄を發揮していただけるよう、教わったりしながら一人ひとりに合わせたやり方で一緒に準備している。 ・食事も利用者の中に職員が入り、静かな音楽をかけながら皆で楽しく食べている。	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・コーヒーの好きな方、甘いお茶ならたくさん飲まれる方、甘いお菓子の好きな方など、一人ひとりの状況に合わせて適時に楽しめるよう支援している。 ・今は薬の関係であまり機会がないが、焼酎のお湯割りがお好きで楽しんでおられた方もいらっしゃる。	・それぞれの好みに合わせて外食をする機会を設けたい。 ・バイキングや鍋料理も楽しみたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・排泄チェック表に記入しており、一人ひとりの排泄のおよそのパターンは把握できており、それぞれの方に合わせた声かけをさりげなくしている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・一番風呂でなければいやな方、夕方のほうが好きな方など、できるだけ希望に合わせて支援している。 ・入浴を拒む方には時間をおいて声かけしてみたり、翌日にまた声かけしたりしている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・自宅でも夜が遅かった方は、リビングでお茶やお菓子を食べながらゆっくりテレビを楽しんでいただいたり、一人ひとりの体調に合わせて昼寝の必要な方には昼食後自室で休んでいただいたりしている。 ・夜眠れない時はしばらく一緒に温かい飲み物を飲みながらお話ししたりしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・昔とった杵柄を發揮していただけるよう笹団子や梅干、干しかぶ等季節ごとに教えていただきながら作る機会を設けたり、歌が好きな方は町内ののど自慢大会に参加して得意な歌を披露する場を作っている。 ・日常的には食事作りや野菜の下ごしらえ、コーヒーを入れる等様々な場面で力を發揮していただいている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・財布をホームで預かっている方も出かける時には本人が所持して支払っておられる。また、出かける時に少額をお渡しして支払いはご自分でしていただいている方もおられる。 ・地域福祉権利擁護事業を利用している方もお小遣いはご自分で持っておられる。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・一人ひとりの体調や気分、希望や天候によって、散歩や買い物、喫茶店、友人宅など、日常的に出かけられるよう支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・ご家族のご協力で実現できたこともあるが、これからということもある。 ・職員のやりくりが難しい。		・一人ひとりの思いを受けとめ、一つずつ実現できるようご家族やボランティアの協力も得ながら現実的な具体案を検討したい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・ホームの電話は必要な時にいつでも使っていており、ご本人宛のご家族からの電話もいただいている。 ・贈り物をいただいたときはご本人に御礼のはがきを書いていただけるよう支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・職員は常に明るい対応を心がけており、面会時間も特に決まっていない。 ・友人と居室でゆっくり過ごしたり、ご家族もよく訪問して下さっている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」など、身体拘束は皆無であるが、その項目一つひとつを知っている職員は少ない。		・改めて勉強会をしたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・外出傾向のある方の所在は常に把握しており、外出しようとされる時はできるだけ止めることなく、一緒に出かけるようにしている。 ・日中玄関に鍵はかけず、職員間で連携をはかり、見守りをしている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・日中職員は利用者トリピングで過ごし、記録等もそこで執りながらさりげなく見守っている。居室で過ごされる方にはお茶や洗濯物を届けたりしながらさりげなく見守っている。 ・台所は対面式で見守りしやすい。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・利用者一人ひとりのその時の状況に合わせて、注意の必要なものの保管方法を申し送りや会議等に職員間で検討している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・利用者の現在の状況を把握し、事故が起こらないよう注意事項を申し送りやケース検討会で話し合っている。 ・万が一、事故が発生した時にはご家族へ報告し原因と今後の予防対策について速やかに検討し、実行している。		・書き込みやすいヒヤリハットの報告用紙を作り、気がついた時にすぐに記入でき、また誰でもいつでも自分のこととして振り返れるように、すぐに手にとって見られる場所に置くこととした。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・年一回地域の方にも参加を呼びかけて、消防署の協力で救急法の講習会を開いて職員も参加している。 ・緊急時の対応方法、連絡方法等について職員は熟知している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・年2回防災訓練を実施し、うち1回は自治会に呼びかけて近隣の方の参加・協力を得ている。 ・災害に備え、食料、飲料水、トイレ、燃料等備品を準備した。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	・それぞれの方のリスクについてご家族にお話ししながら、協力をいただいている。 ・新たなリスクが出てきた時にはその都度対応策を検討している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・職員は一人ひとりの普段の様子を把握しており、「いつもと違って・・・」という気づきを大切にしている。 ・変化が見られる時はバイタルチェックを行い、注意深く見守り、確実に申し送っている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬についての勉強会をし、一人ひとりの薬について理解を深めた。 ・服薬時は確認のうえご本人に手渡し、服用を見守るようにしている。 ・状況の変化により看護師や医師、ご家族と連携を図っている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・一人ひとりの状況を細かく把握し、それぞれに合わせて飲食物や下剤の量の調節、運動やトイレの時間など、日々工夫して便秘対策に取り組んでいる。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・毎食後、歯磨きの声かけをし、必要に応じて介助している。 義歯洗浄も一人ひとりの状況に応じて、その方に合った時間に行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事は常にチェックしており、特に体調の悪い方については水分量も詳しくチェックするようにしている。 ・職員に保健師がおり、検食簿をチェックしてもらっている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	・職員及び利用者、また来訪される方々に対しても、手洗い、うがいの徹底をお願いしている。 ・マニュアルを作成し、職員に周知している。 ・インフルエンザ予防接種を利用者と共に職員も受けている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・ふきんは毎回消毒し、まな板も定期的に消毒している。食器は毎晩煮沸消毒し、衛生に気を配っている。 ・食材は日付の先のものから使い、適量を作って残さないようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・玄関先にプランターを置き、四季折々の花を楽しめるようにしている。 ・玄関に季節感のある置物を飾ったり手作り品を置いたりして親しみやすい雰囲気になっている。		・ウェルカムボードや「いつでもボランティア大歓迎」のポスターを貼るなど、今後も職員で話し合って工夫していきたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・ホーム内はいずれも木のぬくもりの感じられる家庭的な雰囲気であり、季節によって草花や装飾品などを変えている。利用者の描かれた絵などもさりげなく飾られている。 ・親しみやすい音楽が流れている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・2階の廊下にソファとテレビを置き、ひとりで好きな番組を見たり、また気の合う利用者同士でひなたぼっこできる空間がある。		・リビングのテーブルやソファの位置をもう少し工夫したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・一人ひとり使い慣れた家具やなじみのある物を持ち込んでいただいております、長年仕事で使ってこられた道具などもある。仏壇を置いている方もおられる。それぞれが個性的でその方らしい部屋になっている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・早朝、清掃時、日中適時に換気するよう配慮している。また、ホーム全体の温度がなるべく一定になるように、廊下にも暖房を設置し、空気が流れるようにしている。 ・各居室も時々伺い、温度調節、乾燥予防にも配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・利用者の状態、またその変化に応じて手すりの位置、家具の配置等見直している。必要に応じて夜間の転倒防止のため、キャッチアップセンサーを設置したり室内環境を整えるよう配慮している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・混乱や失敗の原因となるようなものについては、直ちに改善策を職員間で話し合い、実行している。 ・職員は常に利用者の状況に合わせた環境整備を心がけている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・庭に花や木を植えたり草取りをしたり、また玄関前のプランターにも花を植え、毎日それを眺めて楽しんだりしている。		・中庭で楽しんだり、出入りしやすいように、改修する計画がある。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居されている方々の高齢化、重度化に伴い、一人ひとりのその人らしさやその方にとってのよりよい暮らし方とは何なのかを改めて見つめ直し、その方の今持てる力を見出し、それが生き生きと暮らし続ける原動力となるよう支援していきたいと考えています。

私たちのホームは大きな通りから一步入った、ほんとうにごく普通の住宅地の中に建っています。建物が隣家とも接しており、一見総二階の普通の家です。そして、ホームの建物がこの地域に溶け込んでいるのと同じ様に、そこで暮らす入居者の方々、そして私たち職員もこの地に馴染んできました。今では通りがかりの挨拶はもちろん、ご近所の方が入居者の方々にも気軽に声をかけてくださり、立ち話する姿も見られるようになりました。また、防災訓練も自治会の方々と一緒に参加してくださり、災害時の協力体制も得られ、本当に心強い限りです。